

群馬県立高崎高等学校(全日制)学校評価一覧表① 令和4年度版

(様式1)

羅針盤		
評価対象	評価項目	具体的数値項目
I 3F精神に根ざす活力ある高生を育成し、活気ある学校づくりを進めていますか。(全体・生徒部)	1 生活規律を確立する。	① 各学期1回挨拶週間を設定する。 ② 式典時の服装意識の向上やチャイムスタートを徹底する。 ③ SNSに関わるトラブルを無くす。
	2 交通安全を推進する。	④ 自転車重大事故0件。 ⑤ ヘルメット着用率100%。 ⑥ 駐輪場でのトラブルを無くす。
	3 教育相談業務を充実させる。	⑦ 定期的に教育相談係会議・生徒部会議を実施する。 ⑧ SC等を有効活用するためのマネジメントを教育相談係が中心になり行う。
	4 生徒会活動を充実させる。	⑨ 生徒会諸行事の成功・定期戦の勝利・翠櫛祭の成功。 ⑩ 部活動加入率の増加・高校総体優勝。上位大会への出場数を増やす。 ⑪ 地域の清掃活動や社会に貢献できるボランティア活動に取り組む。
II 健康と安全への理解を深め、学習環境と教育設備の整備に努めていますか。(保健環境部・事務部)	5 健康な身体と健全な精神を育成するため、自主的・積極的に心身を鍛える資質・能力を養う。	⑫ 「保健だより」を毎月発行する。 ⑬ 家庭に向けての受診の呼びかけを強化する。
	6 健康的で落ち着いた集団生活を維持するために、安全で衛生的、かつ快適な学習環境を整備する。	⑭ 保健委員による校内巡視を毎月実施する。 ⑮ 学習環境が快適であると感じている生徒が80%以上である。
	7 校内美化の推進及びゴミの分別・減量を徹底する。	⑯ ゴミの分別を徹底する。
	8 防災意識を高める。	⑰ 訓練時の行動に関する生徒の自己評価が90%以上である。
III PTA・同窓会・地域と連携し、本校の教育活動を発展させていますか。(広報渉外部)	9 PTAから信頼される学校を目指す。	⑱ PTA総会の出席率が60%を超える。 ⑲ 学年保護者会の出席率が90%を超える。
	10 同窓会から大いに支援される学校を目指す。	⑳ 同窓会新年総会、常任理事会、理事会で毎回現況を報告する。 ㉑ 「先輩教えてください！」を40以上の事業所で行っていたことともに、内容の充実・発展に努める。
	11 地域から信頼される学校を目指す。	㉒ 「翠櫛セミナー」に地域の方々5人以上の参加を実現するとともに、内容の充実・発展に努める。
	12 情報管理を徹底した上で、情報モラル、セキュリティの意識向上を図るとともに、Webページを随時更新することで地域に向けて積極的に情報を発信する。	㉓ 職員の情報モラル、情報セキュリティの意識向上を図る。 ㉔ 教員のICT活用実践例を増加させる。 ㉕ 常にWebページを最新の情報に保つ。
IV 質が高く、内容が豊かな「力」のつく授業を展開し、学力を向上させていますか。(教務部)	13 適切に授業時間を確保し、力づく教育課程を編成し実施する。	㉖ 臨時時間割の行事前の日程に余裕を持った提示と、入替の年間行事予定表への記載。新学習指導要領に対応する教育課程の最終調整と授業時間割を確定する。
	14 校内諸活動計画の調整を行う。	㉗ 調整ミスによる直前の計画変更や、当日の中止といった事態を起こさないこと。
	15 教員個々及び集団としての教科指導力の向上と授業改善を推進する。	㉘ 教員1人あたり年2回以上実施し、クロスカリキュラムは1回実施する。 ㉙ 新しいシラバスを評価する生徒が80%以上である。
	16 成績処理・各種教務関係書類作成等の事務を正確かつ適正に実行する。	㉚ 教務部の係ごとの打合せ回数を増やす。

方 策	
・挨拶の習慣化のために、全職員をあげて挨拶運動を行う。 ・TPOを弁えた行動を理解させ自発的に行動できるよう指導する。 ・他者を思いやる行動や言動を身につけさせ、IT機器の適切な利用について指導を徹底する。	・挨拶運動をさらに呼びかける。 ・各行事でTPOを意識させた行動を促す。 ・IT機器の適切な使用・管理を徹底するよう定期的に啓発する。
・交通ルールを遵守し危険予測のできる自転車運転を身につけさせる。 ・全校生徒の交通規範が定着するよう組織的な交通安全指導を行う。 ・自転車駐輪場所の遵守、自己管理の徹底を図る。	・ポスター掲示・啓発活動を定期的に行う。 ・下校時指導も実施する。 ・ヘルメットの自己管理を促す。
・教育相談係会議・生徒部会議にて情報交換を行い、チームでの支援体制を確立する。 ・SCの紹介及び面談計画の作成や外部機関への連絡など、担任・学年が必要とする支援を行う。	・諸会議での情報交換を今後も徹底していく。 ・いじめ防止対策委員会を迅速に開催し、組織的に対応することを徹底していく。
・生徒会総務及び実行委員等と連携を図り、コロナ禍でも最大限実現できるよう各行事の指導助言を行う。 ・部・部顧問との連携を強化し、施設等の効率的な活用を推進しながら県内入賞種目を増やす。 ・ボランティア活動を全校で積極的に取り組めるよう、生徒会総務を中心に活動を進め、地域と連携を図っていく。	・定期的な会議を開催し、職員との連携を強化していく。 ・部活動代表者会議等を開催し、課題を解決していく。 ・ボランティア活動等何ができるか模索していく。
・「保健だより」やその他の健康関連情報を適宜発信する。 ・生徒の健康状態・定期健康診断の結果を踏まえ、必要に応じた処置や受診指導を行う。	・コロナ禍で多くの生徒が自身の健康管理に努めているが、声かけを続けていく。 ・引き続き、適切な指導を行う。
・職員及び生徒保健委員による校内巡視や環境測定を定期的に実施し、衛生的で安全な学習環境を維持する。 ・冷暖房や照明等の適切な使用の指導、及び施設・設備の点検・整美を行い、必要に応じて机や椅子などの入れ替えに対応する。	・職員および保健委員による校内巡視や環境整備については実施できた。 ・学習環境が快適であると回答している生徒は89%いるが、換気するなどのコロナ対策及び学習環境の整備を引き続き進めている。
・清美委員によるゴミの分別指導をさらに充実させ、家庭内から持ち込んだ物のゴミの持ち帰りを徹底させる。	・ゴミ箱の変更等で校舎内のゴミの分別は徹底されつつあるが、今後も指導を続けていく。
・防災避難訓練当日だけでなく、日頃から防災意識を高める。	・災害に対して危機意識を持つ生徒の割合が高いが、引き続き指導を徹底していく。
・PTA総会への積極的な参加を促し内容の充実・発展に努める。 ・学年保護者会への積極的な参加を促し、内容の充実・発展及び保護者にとって有益と思われる情報の日常的発信、保護者の声を拾うことに努める。	・対面で実施することができた。出席率は51%と目標には届かなかった。 ・学年保護者集会の出席率は、1学年が72%で目標には届かなかった。引き続き広報に重点を置く。2・3学年はオンラインでのハイブリットで実施した。
・同窓会報や理事会等で学校の現況を積極的に発信するとともに、幅広く同窓会委員の声を拾うように努める。 ・創立記念講演会を充実したものにするとともに「先輩教えてください！」事業の絶えざる改善及び発展に努める。	・同窓会へ学校の現況を報告しながら、同窓会からの支援・協力体制を維持する。 ・創立記念式典は規模を縮小し、「先輩教えてください！」は事業内容の改善を図る。
・地域の方々に本校の存在意義を認識してもらうとともに「翠櫛セミナー」などの行事を地域の方々にも周知する。	・翠櫛セミナーは、中止となった。次年度へ向け開催方法を検討していきたい。
・機会ある毎に、情報モラルやセキュリティに関する情報を職員に提供する。 ・ICT環境を整備し、活用例を職員に提供する。 ・各部署に情報提供を呼びかけるとともに、行事ごとにWebページを更新する。	・適宜、職員に情報提供できている。今後も継続していく。 ・ICT環境の課題を常に点検していく。 ・常にWebページは最新の状態にできている。定期的なチェック体制を整える。
・行事等における臨時時間割の編成・曜日間の授業の入替え・授業カット時のローテーションを、年間を通して計画的かつ円滑に実施し、令和4年度新教育課程を計画的かつ円滑に実施する。	・授業のさらなる質の向上や授業時間・家庭学習の活用方法について検討していく。
・学年・SSH部・進路部・生徒部との連絡を密にし、学校行事と諸活動を充実した意義あるものにするるとともに、授業時間を適切に管理する。	・管理職、各分掌、各学年との連絡は密にしている。新型コロナウイルス感染状況にも対応し、行事や諸活動が授業をさらに生かすものになるよう、適切に管理を継続していく。
・教科の枠を超えた教員同士の授業参観と指導方法の研修を推進する。SSH部との連携のもとクロスカリキュラムを推進する。 ・シラバスを日常的に活用する。	・さらなる授業改善に向け、授業参観・指導方法の研修を引き続き推進していく。 ・観点別評価を日常的に点検する。
・教務関係業務について見直しを進め、ミスの起こらないようデータ処理の確認を複数人で行うとともに、広報部との連携を密にする。	・授業時数のカウント、教育課程、教科の評価、感染症関連の出席停止については、丁寧に処理を行う。

第1回 点検・評価		第2回 点検・評価			
自己評価	外部アンケート	改善策	自己評価	外部アンケート	改善策
B A A	B A A	・登下校時の挨拶をさらに呼びかける。 ・各行事でTPOを意識させた行動を促す。 ・IT機器の適切な使用・管理を徹底するよう定期的に啓発する。	B A A	B A A	・挨拶運動など生徒会と協力しながら定期的に実施する。 ・職員から生徒への積極的な話し掛けを心掛ける。 ・IT機器(Chromebook)の紛失・トラブルの案件はなかったが、自己管理の徹底を継続的に呼びかけていく。
A B A	A B A	・ポスター掲示・啓発活動を定期的に行う。 ・下校時指導も実施する。 ・ヘルメットの自己管理を促す。	A B A	A B A	・ポスター掲示等、啓発活動を継続的にやっていく。 ・登下校も指導することができたので継続していく。 ・ヘルメット紛失等の案件はなかったが、自己管理の徹底を継続的に呼びかけていく。
A A A	A A A	・諸会議での情報交換を今後も徹底していく。 ・いじめ防止対策委員会を迅速に開催し、組織的に対応することを徹底していく。	A A A	A A A	・諸会議での情報交換を今後も徹底していく。 ・いじめ防止対策委員会を迅速に開催し、組織的に対応することを徹底していく。
A A B	A A B	・定期的な会議を開催し、職員との連携を強化していく。 ・部活動代表者会議等を開催し、課題を解決していく。 ・ボランティア活動等何ができるか模索していく。	A A B	A A B	・生徒会等と定期的に会議を開催し、職員との連携をより強化していく。 ・部活動代表者会議等を開催し、課題を解決していく。 ・学校の活性化のために生徒会等と連携し、何ができるか模索し実施していく。
A B	A B	・コロナ禍で多くの生徒が自身の健康管理に努めているが、声かけを続けていく。 ・引き続き、適切な指導を行う。	A B	A B	・多くの生徒が自身の健康管理に努めコロナ対策を行っていたこともあり、現時点では集団感染を起こさずに済んでいる。 ・引き続き必要な情報を発信し、適切な指導を行う。
B A A	B A A	・コロナ対策での環境整備について昼休みに生徒の放送による注意喚起を継続する。 ・今後は職員および生徒による校内巡視を強化する。	B A A	B A A	・職員および保健委員の生徒による環境整備確認については実施できた。 ・学習環境が快適であると回答している生徒は89%いるが、換気するなどのコロナ対策及び学習環境の整備を引き続き進めている。
A A	A A	・ゴミ箱の変更等で校舎内のゴミの分別は徹底されつつあるが、今後も指導を続けていく。	A A	A A	・ゴミの分別および減量に関して生徒の意識は高くなりつつあるが、現実には徹底されない場面もあるため、引き続き地道な指導を続けていく。
A A	A A	・災害に対して危機意識を持つ生徒の割合が高いが、引き続き指導を徹底していく。	A A	A A	・災害に対して危機意識を持つ生徒の割合が年間を通して96%と高く、今年は土砂災害を想定した訓練もできた。体育館改修工事で2回目の実践的な訓練ができなかった。
C B	C B	・対面で実施することができた。出席率は51%と目標には届かなかった。 ・学年保護者集会の出席率は、1学年が72%で目標には届かなかった。引き続き広報に重点を置く。2・3学年はオンラインでのハイブリットで実施した。	— B	— B	・PTA総会や学年の保護者集会への出席率の伸びし方を検討する必要がある。 ・実施方法や内容等を検討していく。
A A A	A A A	・同窓会へ学校の現況を報告しながら、同窓会からの支援・協力体制を維持する。 ・創立記念式典は規模を縮小し、「先輩教えてください！」は事業内容の改善を図る。	A A A	A A A	・同窓会へ学校の現況を報告しながら同窓会からの支援や協力を得る体制ができているので継続していく。 ・「先輩教えてください！」事業では多くの事業所の協力を得て、充実した内容になった。
—	—	・翠櫛セミナーは、中止となった。次年度へ向け開催方法を検討していきたい。	—	—	・翠櫛セミナーの実施方法について検討していく必要がある。
A A A	A A A	・適宜、職員に情報提供できている。今後も継続していく。 ・ICT環境の課題を常に点検していく。 ・常にWebページは最新の状態にできている。定期的なチェック体制を整える。	A A A	A A A	・年間を通して必要な情報を職員に提供できた。次年度も継続していく。 ・ICT環境の課題の解決策を日常的に探る。 ・Webページは常に最新の情報を投稿できた。
A A	A A	・授業のさらなる質の向上や授業時間・家庭学習の活用方法について検討していく。	B A	A A	・60分の効果的な活用の仕方について、さらに研究を続け、より力づく授業を展開する。
A A	A A	・管理職、各分掌、各学年との連絡は密にしている。新型コロナウイルス感染状況にも対応し、行事や諸活動が授業をさらに生かすものになるよう、適切に管理を継続していく。	A A	A A	・新型コロナウイルスに係る変動的な状況の中でも、各部署と連携し、適切に対応策を講じることで、必要な行事や諸活動を担保し、授業の質の向上にもつなげる。
A A A	A A A	・さらなる授業改善に向け、授業参観・指導方法の研修を引き続き推進していく。 ・観点別評価を日常的に点検する。	B A A	A A A	・今年度の実施方法を基本としながらも、より柔軟な形のクロスカリキュラム計画する。 ・観点別評価の研修を実施する。
A A	A A	・授業時数のカウント、教育課程、教科の評価、感染症関連の出席停止については、丁寧に処理を行う。	A A	A A	・今年度スタートした観点別評価について、見直しが必要な部分については年度内に改善し、職員全体の共通理解を図る。

群馬県立高崎高等学校(全日制)学校評価一覧表① 令和4年度版

(様式1)

羅針盤		
評価対象	評価項目	具体的数値項目
V 3年間を見通したキャリア教育を推進し、進路目標を達成させ、自己実現を図っていますか。(進路部)	17 高い志を育成し、学ぶ意味を知り、自ら学ぶ生徒を育てる。	① 学習時間の増加。 部で活動中：平日最低2.5時間 部活動引退後：平日最低3.5時間 ② 1年次：志の明確化 2年次：学部・学科の明確化と志望大学の決定 3年次：受験大学の確定 ③ 志と夢の明確化とそれを叶えるための具体的道筋の理解 自己肯定感を高め夢を叶えるため自ら学習に取り組む。 ④ 授業アンケート平均点の向上。 ⑤ 模試の成績向上 1年次：英数国総合ベネッセ偏差値 65 2年次：英数国総合ベネッセ偏差値 65 3年次：英数国総合ベネッセ偏差値 62 ⑥ 教師・生徒の信頼関係の向上と模試の成績向上。シラバスの利用率100%。
	18 学力・進学実績の向上を達成する。	⑦ クロスカリキュラムの実践事例が16事例以上。 ⑧ 教材開発・授業検討を含めて、クロスカリキュラムの取り組みをしたことのある教員が80%以上。
VI SSH事業を効果的に運営して、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、主体的に学ぶ態度を育成していますか。(SSH部)	19 課題研究やクロスカリキュラムは全職員体制で取り組む。	⑨ 職員間で具体的に育成すべき生徒像や課題研究の指導方法を共有できている状態で課題研究Ⅰ・Ⅱβ・Ⅲの指導に職員が関わる。 ⑩ 1学年及び2学年全体で実施の課題研究終了時にR-PCDAサイクルの一連の流れを経験している生徒が80%以上である。 ⑪ 2学年全体で研究ポートフォリオの作成を通して、探究の手法を整理できた生徒が70%以上である。
	20 サイエンス・プロジェクトⅠ・Ⅱβ・ⅢにおいてR-PCDAサイクルを実践する中で課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、主体的に学ぶ態度の基盤を主として育成する。	⑫ SSHクラスの90%が3学年の課題研究終了時にR-PCDAサイクルを一巡できている。 ⑬ 統計学や数理モデルの考え方を活用した課題研究を行う生徒が全体の60%のグループで現れている。
	21 SSHクラスのサイエンス・プロジェクトⅡα・Ⅲにおいて、理数分野のR-PCDAサイクルを実践することで、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、主体的に学ぶ態度を主として課題研究Ⅱ・Ⅲを通して深化させる。	⑭ SSH事業の課外活動に対してSSH事業の課外講座に100名程度の生徒が参加できるようにする。
	22 スーパーサイエンス部の活動を一層普及させ、科学に対する興味関心を向上させるとともに自己実現に向けて主体的に学ぶ態度を育成する。	⑮ 貸出冊数が2,500冊を超える。 ⑯ 月平均300人以上が図書館を利用する。
	23 生徒の読書習慣を早期に育成する。	⑰ 多読者への表彰。 ⑱ 月に1度のペースで図書間企画と蔵書管理を実施。
VII 活字に親しませて読書習慣を育むことにより、人間性を豊かにするとともに知力を向上・深化させていきますか。(広報渉外部)	24 図書館利用の活性化と蔵書管理を徹底する。	⑲ 「図書館便り」の年10回発行。 ⑳ 適切な貸出、返却の指導を行う。「図書館便り」及び「図書館報」を発行する。
	25 図書委員会の活動を充実させる。	㉑ SSH関連図書を買、量ともに充実させる。
	26 SSH課題研究論文の作成を支援する。	㉒ デジタルツールを用いた授業が80%以上である。 ㉓ デジタルツールを活用した授業に生徒の80%以上が満足している。
	27 ICTを活用した指導を行っていますか。(情報課)	㉔ オンラインによるアンケートを年3回以上実施している。 オンラインによる通知の割合が50%以上である。
28 ICTを活用した業務改善を行っていますか。		

方 策	
・各授業で、学ぶ意味を共に考え、生徒の意欲を高める。	・各進路行事・集会の質を高めるとともに、その意味を正しく伝え、志を育て、夢を育む。
・各種進路行事への参加を促し、社会に対する問題意識を高める。	・面談を効果的にを行い、助言を与えながら、生徒に自信を持たせる。
・教科指導力を向上とやるべきことの精選。	・現状分析を踏まえた共通テスト等への迅速な対応と3年間を見通した指導の推進。
・教科・学年・進路部での意思統一とシラバスの活用。	・クロスカリキュラムの目的や意義として課題発見・課題解決力の向上、国語力・論理的思考力の向上があることを研修等で周知する。
・1・2学年においてはルーブリックを早期に提示し、指導における評価規準を共有するだけでなく、課題研究の方法論も含めて協議の場を研修等で設けることを定例化する。	・1学年においてはSPⅠやSCⅠを活用してR-PCDAサイクルの調査の段階で文献のまとめ方、科学的思考の表現の仕方などの表現力の育成後、問いの設定から仮説の検証までの一連の流れを生徒には経験させる。2学年においては、「先輩、教えてください！」担当と「修学旅行」担当と連携して、1学年の課題研究の実践を継承しながら、社会課題をデザインズ等を活用して解決するR-PCDAサイクルを実践する。
・2学年においては、研究スキル習得講座を実践し、そのスキルを担当者間で共有し、随時指導できる体制をつくる。	・課題研究Ⅱ・Ⅲの実践においては、まず予備実験を早期に実践させ、研究の具体的なイメージを生徒に持たせる。また、定量的な測定を行い、妥当性を考察できるように専門的な文献調査や統計学の活用に関する指導を外部機関と連携して実施する。
・スーパーサイエンス部の活動の案内を全生徒に提供するだけでなく、各立場(担任、教科担当、部活動)からも参加を働きかけてもらうよう依頼する。	・オリエンテーション等で読書指導を行う。 『群青』を活用し、読書感想文コンクールへ意欲的に取り組ませる。書庫の整理を定期的に行う。
・諸企画への一般生徒の参加を促進する。各教科の授業内容を意識し、適宜連携する。	・定期的な読書アンケートによる読書実態調査を行い、選書を充実させる。
・適切な貸出、返却の指導を行う。「図書館便り」及び「図書館報」を発行する。	・SSH関連図書の整備と活用促進を図る。
・デジタルツールの効果的な利用方法について職員研修を実施する。	・全ての教員が各自の授業の中でデジタルツールを用いた有効な指導を立案して実践する。
・デジタルツールを用いて簡単にアンケートに答えられるフォームを作成して利用できるようにする。	・極力、紙媒体からデジタル通信への変換を図る。

第1回 点検・評価		第2回 点検・評価	
自己評価	外部アンケート	自己評価	外部アンケート
B	B	B	B
A	A	A	A
A	A	A	A
A	A	A	A
A	A	A	A
A	A	A	A
B	B	B	B
A	A	A	A
A	A	A	A
A	A	A	A
A	A	A	A
A	A	A	A
A	A	A	A
A	A	A	A
B	B	A	A
B	B	A	A
A	A	A	A
A	A	A	A
B	B	A	A
A	A	A	A
C	C	C	C
A	A	A	A
A	A	A	A
A	A	A	A

改善策

・授業で学ぶ意味をより深く考えさせ、自ら学ぶ生徒へと変容させる。

・行事の目的や時期を考え、企画・運営していく。
・定期的な学年集会や保護者集会などで指導方針を明確に伝えていく。
・個別面談を重視し、生徒に合わせた助言を丁寧に行う。

・職員同士の参観や授業研究を通して授業改善の意識を一層高める。
・学年内と教科担当者が目線を合わせて統一した方針で総合力を高める。
・授業において、生徒を観察して全体指導と個に合わせた指導助言を継続する。

・教務部と連携した授業改善研修の一環として、クロスカリキュラム授業を推奨する。
・クロスカリキュラム授業に関する具体的事例やパターンなどの情報提供を行う。

・SPの学年担当の先生を中心に密に連携を取り、情報共有を図る。
・全生徒が課題研究を実施できている。より良いカリキュラムを開発していく。
・探究の成果をポスターやプレゼンテーションにまとめたり、ルーブリックによる自己評価・相互評価・教員評価を通じて、探究の手法を習得できるようにする。

・探究のサイクルを何巡も繰り返し、フィードバックを受けながら、探究が深められるようにする。
・データサイエンス分野の課題研究を推進し、自然科学分野においても統計的手法を用いたデータ処理ができるようにする。

・内閣総理大臣賞、文部科学大臣賞、総務大臣賞の受賞など卓越した成果を上げることができた。一方で、科学オリンピック等では成果がでないの指導体制について検討する。

・図書館蔵書検索システムの導入によりホームページから図書館の予約が可能になった。
・書庫の整理を進め、利用者増加につなげた。さらに快適な空間作りを目指す。

・進路コーナーとSSHコーナーを新設し、SPレファレンス受付を開始する。
・毎月生徒が楽しめるイベントを開催しているが、さらにその質を高めていきたい。

・POPコンクール、黒板アート、読みぐすり等、さまざまな新たな企画を、図書委員がやりがいをもって実施していた。来年度は、さらに継続・発展していきたい。

・レファレンス申込書を用意し、書架も増設した。今後も関係部署との連携を強化したい。

・職員研修ではないが、オンライン研修などの情報を共有している。
・授業研究の一環として、デジタルツールの活用を推進している。

・学校評価アンケートや授業アンケートを、デジタルツールを活用して実施している。
・会議資料のデジタル化を進めている。